其後は我に即無少太ヨニ 拝啓

愈御勇健にて御活躍の段其後は誠に御無沙汰申上候処

拝仰承 慶賀此の事に奉存候

鋼生産と戦時産業の運

降

りて迂生幸に頑健にて鉄

営に一路邁進可致候へ共

何分にも不慣の事故 心は焦り

有之候が 十九年は愈作戦打たれ誠に不甲斐なき次第に候へ共日暮道遠の観に

勤労の心起に有之 旧倍の御一層粉骨砕身にて王事に苛烈を予期せらるるの秋

支援の程願上候

羽本日は新井主事をして 珍品御恵贈せしめ被下 難有 整二御恵贈せしめ被下 難有 を御世話御厚情の程深く御礼 で不堪今又御厚情に浴しながら に不堪今又御厚配に浴しながら

被下度 機会を失し候事残念に存じ申候 御請出来ざりし次第不悪御海容 被下候処 過日は折角桑名に御寵 量に有之 迂生の福得に預りしは極々少 御 ある宝有之候 甘味に飢えたるは想像に余 として掠奪持還り候様の次第にて 早速其の大部を戦利品 礼申上候 従つて久し振 生憎他に約束有之 如何に小児連中が 丁度孫共来り居り 御礼申上候 に御面 招 n 尚又 悟の

頓首

十二月三十一日

長尾欽弥殿

豊田貞次郎

玉机下